

# 平成27年度八重山群島病害虫発生予報第1号(4月予報)

## I 4月の気象予報

向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	平均気温	降水量	日照時間
高い(多い)	40	20	40
平年並	30	40	40
低い(少ない)	30	40	20

(平成27年3月12日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

平年値

	平均気温(°C)	最高気温(°C)	最低気温(°C)	降水量(mm)	日照時間(h)
八重山群島(石垣島)	23.3	25.8	21.2	155.1	125.3

(沖縄気象台発表・統計期間1981～2010・資料年数30年)

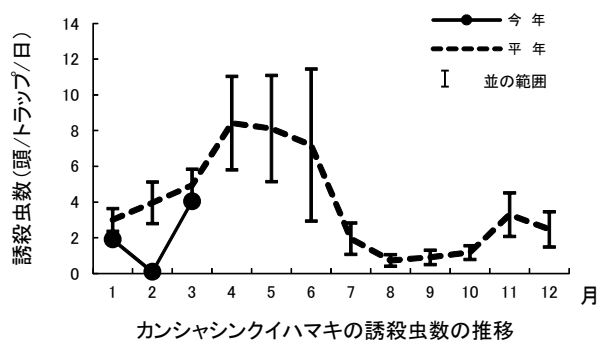
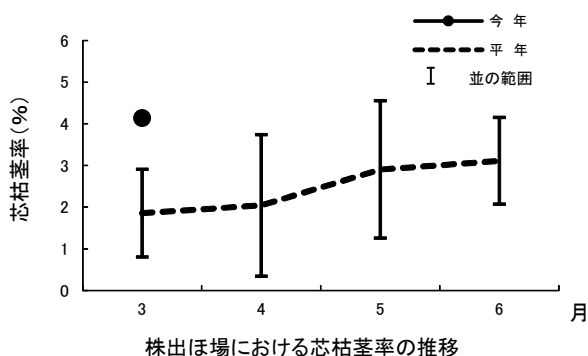
## II 4月の発生予報および防除上の注意事項

### 1 さとうきび

#### (1) カンシャシクイハマキ

発生程度 : やや多  
予報の根拠

- a 3月上旬の調査の結果、株出ほ場における芯枯茎率は4.1%(前年6.6%、平年1.9%)と平年よりやや高かった。
- b 3月のカンシャシクイハマキ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は4.0頭(前年2.2頭、平年4.9頭)と平年よりやや少なかった。
- c 芯枯茎切開調査の結果、確認されたメイチュウ類幼虫のうち48.9%がカンシャシクイハマキであった。



#### <防除上注意すべき事項>

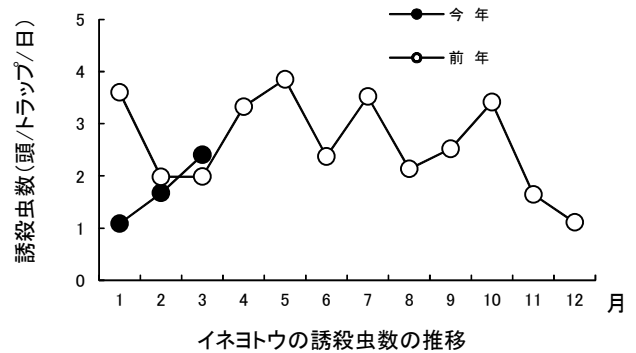
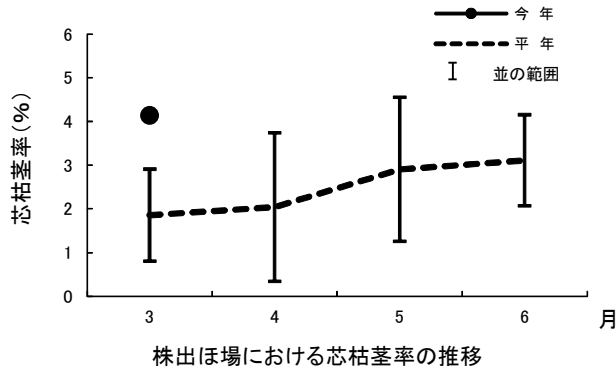
- a ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- b 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、植付時・株出管理時および生育初期の防除を徹底する。
- c ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- d 植付時および株出管理時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を施用する。
- e 培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- f 平成24年度病害虫発生予察技術情報第3号(平成24年6月11日付)参照。

(2) イネヨトウ

発生程度 : やや多

予報の根拠

- a 3月上旬の調査の結果、株出ほ場における芯枯茎率は4.1%(前年6.6%、平年1.9%)と平年よりやや高かった。
- b 3月のイネヨトウ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は2.4頭(前年1.2頭)であった。
- c 芯枯茎切開調査の結果、確認されたメイチュウ類幼虫のうち51.1%がイネヨトウであった。



<防除上注意すべき事項>

- a カンシャシンクイハマキの防除上注意すべき事項を参照。
- b 平成24年度病害虫発生予察技術情報第3号(平成24年6月11日付)参照。

○ カンシャコバネナガカメムシ(ガイダー)の防除対策

- a 3月上旬の調査の結果、茎当たり虫数は1.0頭(前年2.7頭、平年27.2頭)と平年よりやや少なかった。
- b 2~3月の気温に基づく、3月18日時点で防除適期は、平年より石垣島及び周辺離島で3日遅く、与那国島では平年並と予想される。
- c この時期に茎当たり虫数が20頭を超える地域は一斉防除をすることが望ましい。
- d 薬剤防除の際は周辺住宅地や隣接ほ場に薬剤が飛散しないよう風向きに注意する。

防除適期予想日(3月19日現在)

地域別	防 除 適 期	2.5齢期予想日		
		本年	平年	平年差
石垣島及び周辺離島	4月2日~4月16日	4月8日	4月6日	2日遅い
与那国島	4月4日~4月18日	4月9日	4月10日	1日早い

## 2 マンゴー

- チャノキイロアザミウマの防除対策
  - a 3月中旬の調査の結果、一部施設で発生していた。
  - b 混合花の新葉や不用な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に摘葉する。
  - c 発生源となる施設内外の雑草を除去する。
  - d 薬剤防除を行う際は、受粉昆虫に影響のないよう巣箱等を施設外に移動する。

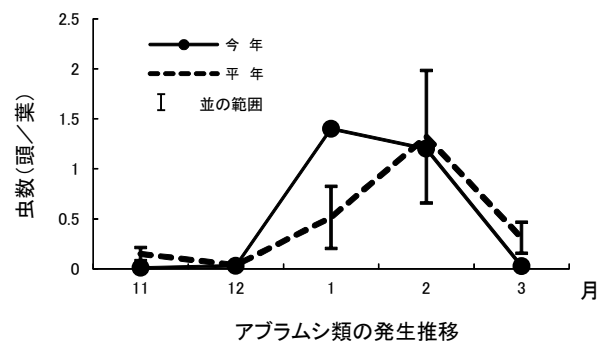
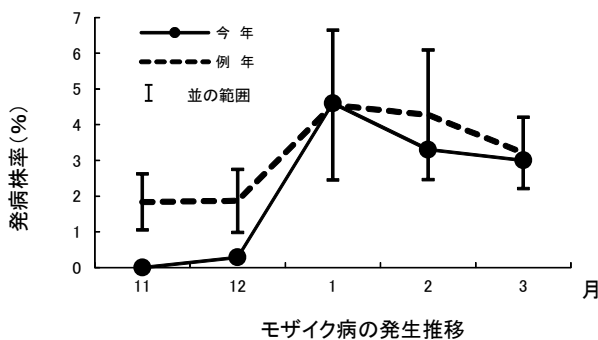
## 3 かぼちゃ

### (1) モザイク病

発生程度 : 並

予報の根拠

- a 3月中旬の調査の結果、発病株率は3.0%(前年4.7%、例年3.2%)と例年並であった。
- b 媒介虫であるアブラムシ類の葉当たり虫数は0.03頭(前年0.28頭、平年0.31頭)と平年より少なかった。



<防除上注意すべき事項>

- a ほ場周辺に防風対策を兼ねた防虫ネット等の資材を利用して有翅虫の飛来侵入を防ぐ。
- b ほ場周辺の雑草はアブラムシ類の発生源になるので除去する。
- c 発病株は発生源となるので、みつけ次第抜き取りビニール袋に入れるなどして密閉処理し、ほ場外へ持ち出し処分する。
- d 本病は汁液伝染するので、ハサミや手の消毒、洗浄を行う。
- e 収穫後の残さは発生源となるので速やかに片付ける。

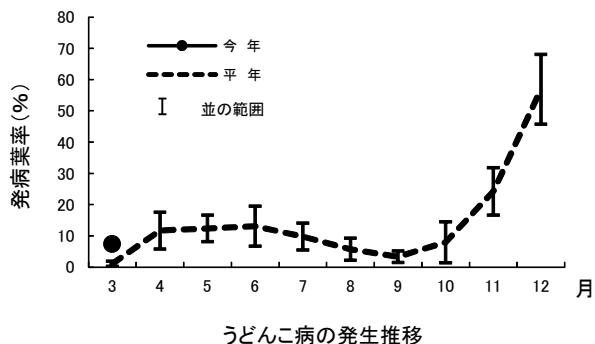
## 4 にがうり(施設)

- うどんこ病の防除対策
  - a 3月中旬の調査の結果、発病葉率は26.2%であった。
  - b 発生源となる不要な老葉・下葉を除去し、透光通風をよくする。
  - c 除去した葉はほ場内に放置せず、ビニール袋に入れるなどして持ち出し処分する。
  - d 薬剤防除は予防散布に重点をおく。
- ミナミキイロアザミウマの防除対策
  - a 3月中旬の調査の結果、一部施設で発生していた。
  - b 今後の気温上昇に伴い、本種の発生が増加することが予想される。
  - c 施設開口部には目合いの細かい防虫ネットを展張し、本種の侵入を防止する。
  - d 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。
  - e 平成27年度病害虫発生予報第1号(平成27年3月23日付)コラム参照。

## 5 オクラ

- (1) うどんこ病  
 発生程度 : 多  
 予報の根拠

3月中旬の調査の結果、発病葉率は7.4% (前年3%、平年1.1%)と平年より高かった。

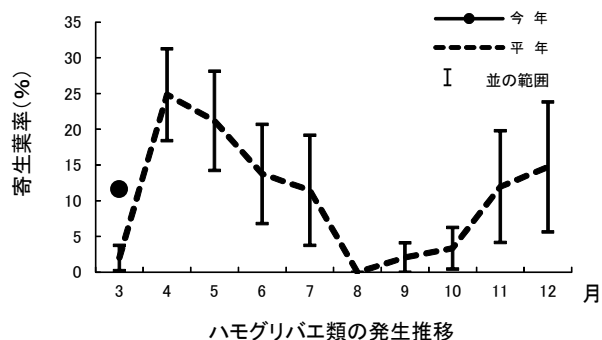


<防除上注意すべき事項>

老葉や病葉は発生源となるので、ほ場内に放置せず、ビニール袋に入れるなどして持ち出し処分し、透光通風を良くする。

- (2) ハモグリバエ類  
 発生程度 : 多  
 予報の根拠

3月中旬の調査の結果、寄生葉率は11.6% (前年10.0%、平年2.0%)と平年より高かった。



<防除上注意すべき事項>

- 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。
- 発生源となるほ場内外の雑草を除去する。
- 摘葉等による残さは本種の発生源となるので、ビニール袋に入れるなどして持ち出し処分し、透光通風を良くする。